

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】 平成 30 年度

事業所番号	2774001206		
法人名	特定非営利活動法人 オリーブの園		
事業所名	グループホームひより南		
所在地	大阪府豊中市曽根南町2丁目7-14		
自己評価作成日	平成 31年 1月 4日	評価結果市町村受理日	平成 31年 2月 25日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.nhlw.go.jp/27/index.php?action=kouhyou_detail_2018_022_kan=true&JigyouyoCd=2774001206-006&PrefCd=27&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人大阪府社会福祉協議会		
所在地	大阪市中央区中寺1丁目1-54 大阪社会福祉指導センター内		
訪問調査日	平成 31年 1月 25日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホームひより南は家庭的で明るいホームであるとともに、入居から看取りまでの安心を看護・介護・医療との連携で支えています。安心した暮らしは環境とケアの専門性で支えられています。その質の高いケアの専門性は人材育成の継続で支えられています。また、認知症啓発活動にも力を注いでおり、認知症ケア専門士やキャラバンメイトとして地域との交流も積極的に行っています。認知症があっても地域の中で暮らす社会の一員としての視点を大切に、たくさんの地域行事に参加し、また、ホームの行事にも地域の方が来られるなど地域との交流も活発に行っています。日常的な買い物や散歩など「共に生きる」理念を地域の中で実践しています。ご利用者様やご家族様とのラポールの構築にも努めており、職員共に楽しく笑顔の絶えないホームです。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

設立後18年、地域に貢献してきたNPO法人オリーブの園が運営する2ユニットのグループホームです。ホームの認知症相談窓口には配慮を要する相談が増加し、地域での役割は大きくなっています。法人では人材育成に力を入れ、QOS(クオリティ オブ スタッフ)委員会を新たに設置して①災害対策委員会、②人権侵害対策委員会、③キャリアアップ人材育成委員会、④感染予防対策委員会、⑤苦情対応委員会、⑥看取りケア委員会を設け、より充実した利用者支援に取り組んでいます。看護師を配置し24時間365日の医療連携支援を行い、看取り支援も充実しています。利用者は明るく活発で、ホーム内に自治会や婦人会を結成し「行きたいところ、食べたいもの」等を意見として反映し、地域の一員として安定した暮らしをしています。職員は利用者一人ひとりの希望に沿った支援を進め、転倒も誤嚥も無い生活を実現しています。音楽療法を行い利用者の力を引き出しながら、利用者の社会参加を促進しています。地域や家族と連携し、行政との協力関係を築きながら、利用者の「生活の質の向上」に取り組んでいるホームです。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある			○	2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)		1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが			○	2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)		1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員憲章9か条があり、施設内に掲示している。また携帯用のカードにして各職員が名札に入れて携帯し常に見ることができるようにしている。職員憲章の具体を 4 つの心得として事務所に掲示し。毎日の朝礼で唱和している。毎年の事業所の目標も施設内に分かりやすく掲げている。地域にも理念を広げるべくオレンジカフェ等を企画し連携している。	「1. 人間と人間社会を見つめ、その空間と時間の歩みをデザインしていきます。2. 多様な文化や価値を認めあい、個々の生きるステージを大切にしていきます。3. 共生社会の中で自立支援のあり方や、そのプロセスを見つめてゆきます。」を理念として、ホーム内に掲示し共有しています。理念は職員憲章9か条(1. 皆同じ土台を持つ人間として「あなたが嬉しいと私もうれしいと、思えることはすばらしい」と感じられる人になること。2. 仕事は常にフレッシュで向上心を持ち、慣れても馴れないこと。3. より機能的で合理的である前に、より人間的であること。4. 重いものは軽く、軽いものは重く扱う思いやりを持つこと。5. ……」と、4つの心得として具体化し、毎日の朝礼で唱和し共有しています。職員は職員憲章を名札の裏に入れて携帯し、日々実践しています。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	公民分館や校区福祉委員会などが主催する体育祭や敬老会、味噌作り、文化祭などの行事には積極的に出かけており、地域の方からも直接声をかけてくださるなど交流はできている。ホームの納涼会や餅つきには地域の方や子ども達もたくさん来られた。近所の子どもさんも時折遊びに来られ、利用者さんと触れ合っている。法人の音楽療法を活用し、介護予防の通所の方との触れ合いもある。	ホームには近所の子どもが遊びに来るなど近隣と日常的な交流があります。利用者は校区福祉委員会や公民分館等が主催する体育祭や敬老会、味噌作り、文化祭等に積極的に参加して活躍し、地域の人々と馴染みの関係を築いています。ホーム主催の納涼祭や餅つき等には地域から多数の参加があり、利用者は一緒に楽しみながら交流しています。ホーム玄関には「介護及び認知症相談」の看板を掲げて、相談活動も行っており地域からの相談事項も増えています。利用者は法人主催の音楽療法を活用した介護予防の取り組みにも参加して、地域の参加者と交流する機会を持っています。職員は認知症啓発活動にも参画して、地域の人々に認知症の知識や学習の機会を提供しています。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている 認知症の人の理解や支援の方法を地域 の人々に向けて活かしている	認知症啓発活動としてキャラバン・メイト事業の「認知症サポーター養成講座」を地域展開させて、多くの方に認知症の知識や学習の機会を提供している。今年度は図書館での出前講座や生命保険会社、スーパーマーケット、老人福祉施設などに出向き、100名以上の認知症サポーターを養成した。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は偶数月に定期開催しており、利用者さんの日常の様子や運営についてなどを報告し、地域の方からの評価をいただいている。運営推進会議を活かした取り組みとして、会議後に学習スタイルのオレンジカフェを行い、認知症について地域で学びあっている。	運営推進会議は、開催規程に沿って2か月に1回、年6回開催しています。その内3回は、同法人運営のもう一つのホームと合同で開催しています。構成メンバーは利用者代表、利用者家族代表、地域住民代表（民生委員、自治会長、福祉委員等）、知見者として社会福祉協議会職員、地域包括支援センター職員、ホーム職員です。最近の会議では、ホームの運営状況、利用者の健康管理状況、地域との交流状況、職員の研修等を報告しています。更にスライドを使って、利用者の生活状況や行事の様子をわかりやすく紹介しています。会議では率直な感想、意見、提案等が出されています。提案や要望等は職員間で共有し運営に活かしています。会議後には、認知症を中心としたテーマで学習する場としてオレンジカフェを開催し、運営推進会議の活性化にも繋がっています。会議録は玄関に置いて誰でも見られるようにしています。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	〇市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	豊中市と介護を活用した就労準備支援事業に協働で取り組んでいる。又、介護予防事業の「街かどデイハウス事業」も法人として受託し、認知症啓発、人材育成、介護予防として連携している。	市の担当者とは協力関係を築き常に連携した取り組みを進めています。ホームの先駆的な取り組みについては市の期待も大きく、災害対策等を含め、いろいろな課題について市と連携しながら取り組んでいます。法人を窓口にも、就労準備支援事業、介護予防事業、認知症啓発活動等にも取り組んでいます。認知症サポーター養成講座では多くのサポーター養成に尽力し、地域に貢献しています。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人内の QOS(クオリティ オブ スタッフ)委員会において「人権侵害対策委員会(身体拘束虐待防止委員会)」グループを立ち上げ、専任委委員を5名決めて 8 つの方針を定めている。研修は年 2 回全職員を対象に予定され、1 回目は「虐待と身体拘束」が行われた。2 回目は「不適切ケアと身体拘束」を 2 月に予定している。当法人では不適切ケアの知識を主に予防対策に取り組んでいる。	理事長をはじめ、管理者は身体拘束をしないケアを重視しています。法人内に QOS(クオリティ オブ スタッフ)委員会を設置し「人権侵害対策委員会(身体拘束虐待防止委員会)」グループを立ち上げて、研修を行い「不適切なケア」を行わない取り組みを進めています。重要事項説明書にも骨子を記載し、利用者家族にも伝えていきます。身体拘束虐待防止委員会を3か月毎に開催し、8つの指針をベースに拘束をしないケアを徹底しています。職員研修は年2回実施し、職員は身体拘束をしないケアの重要性を学んでいます。ホーム玄関は近くの道路の交通量が多いこともあり、現在施錠していますが、ボタンを押せばワンタッチで開錠できます。また、外出希望があれば職員が付き添い自由な暮らしを支援していきます。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待に繋がりがやすい不適切なケアについては、QOS 委員会の「人権侵害対策委員会(身体拘束虐待防止委員会)」のグループでの検証システムの中に入っている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度が活用できるよう、ACP(意思決定の概念)等について、リーダーの宿泊研修等を行い、知識を深める機会を提供している。また、オレンジカフェでもテーマに取り上げ、地域の方々と話し合いの機会を持った。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	運営に関しては年 1 回、家族会を開催し、変更点等を説明している。家族会欠席の方にも手紙等で連絡報告をしている。不安に対しては十分に聴く姿勢や分かりやすさに重点を置き、納得を頂ける様に信頼関係づくりに努めている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族の意見や要望に対しては、介護計画書の承認を得る際に、記入欄に意見・要望等自由に書いて頂ける様になっている。年1回は家族会を開催している。利用者さんの意見や要望はホーム内に自治会があり、それぞれの希望する行事やレク、食事等は出来るだけ反映させている。	ホーム内に自治会や婦人会を設けて定例会議を開催し、「行きたいところ」「食べたい物」「したい事」等を出してもらい、介護計画にも反映させて利用者の日常支援に活かしています。家族来訪時には職員から声かけをして、意見や要望を聞いています。理事長や管理者は年に数回、家族と話し合い、意見や要望、家族の状況等を、ゆっくり時間をかけて聞くようにしています。ホームでは「ご家族との情報交換記録」を作成して職員間で共有し支援に活かしています。年に1回家族会を開催し、家族の意見や要望を確認してホーム運営に活かしています。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月行っている職員会議では各個人の意見や提案を聴く機会を設けている。また、施設内ツアーでは気づきを促すようにチェックを行い、改善につなげている。	管理者は日常的に職員と対話して課題を共有しています。毎月の会議では一人ひとりの意見や提案が出やすいように配慮し、研修にも力を入れています。職員は管理者と行う「施設内ツアー」や利用者支援の中で気付いた課題等を「気づきの記」として共有し、同時に解決方法についても提言しています。管理者は職員が自己点検票を活用して、自らの課題に気付くように導いています。理事長は職員の人材育成システムを更新し、育成の可視化ができるように外部にも依頼して職員の評価を行い、職員が客観的な評価を受けて自己研鑽し、さらに成長できるよう支援しています。	ホームでは時代のニーズに応じた利用者の生活の質の向上を目指すために、QOS(クオリティ オブ スタッフ)委員会を設置しています。QOS 委員会は①災害対策委員会、②人権侵害対策委員会、③キャリアアップ人材育成委員会、④感染予防対策委員会、⑤苦情対応委員会、⑥看取りケア委員会の6つのグループに分けて、それぞれ専任メンバーを決めて運営しています。今後は各分野の問題や課題の解決に向けた取り組みを進めながら、職員の育成、利用者の生活の質の向上、安心と安全の確保に向けて、さらに取り組みを進める予定です。今後、取り組みの成果が期待されます。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の福利厚生に関しては、人材育成を中心にセレブレーション等を充実させている。今年は新人を含め、優秀賞を予定している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の人材育成システムを改善し、育成の可視化ができるように外部にも依頼し、個人評価を行っている。感受性を高められるような文化研修や体感研修も取り入れている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域医療連携会議などの交流会において顔の見えるネットワークづくりを行っている。介護保険事業者連絡会にも積極的に参加し、情報交換を行っている。		
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居時はご本人やご家族の意見を聞きながら暫定計画を立案し、説明している。特にリロケーションダメージに対しては不安がない様にサポートしながらラポール形成を図っている。また、ご家族に対しても不安の軽減を図れるよう、コミュニケーションをとっている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	引っ越しサポートや、生活保護等の福祉ケースに繋ぐ様な経済的支援等も行っている。病院から来られる方は送迎なども引き受けている。又、テレビ・タンス・ベット等の生活用品も必要な方には無料で提供している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	事前面接でご本人やご家族の状況を見極め、既存のサービスや医療の継続なども含めて対応を計画している。入院中の方や精神障害など治療中の方はMSWと等と頻回に面談を行い入居のサポートをしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	昔取った杵柄やご本人の強みを活用できるストレングスケアを計画している。できることに注目し、その時々で柔軟で臨機応変に対応しながら共に学びあえる関係作りに取り組んでいる。ラポール形成の構築は“共に在る”ことの喜びであると捉えている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の選択を尊重しながら、ご本人と家族の絆の改善を図っている。家人との関係の修復は専門的ケアの目的の一つと考えている。特にターミナル期においては、死前からのグリーフケアに向けてご家族とコミュニケーションをとり、ラポール形成を図っている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	グループホームに入居しても、友人等との関係が切れないようにリスクマネジメントを考え、ルールやマナーを守りながら支援を行っている。	職員は利用者一人ひとりの生まれ育った場所や馴染みの場所、思い出の地域等を記録に残して支援に活かしています。大切な人への手紙や礼状、電話の取次ぎ等、職員は馴染みの関係が途切れないように支援しています。携帯電話の持ち込みは自由で、必要があれば充電等の支援をしています。郵便局で年賀状を買ってきて年賀状を出す利用者もあり、希望があれば代筆も行うなど細やかな支援をしています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	汎用的にグループマッチングをすすめている。また、日々のレクリエーションや行事等を通して帰属意識が高められるよう取り組んでいる。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	長期入院や他施設への転居、また自宅へ戻るなど場合はスムーズに移行できるように努めている。再入居を希望される場合など、ご家族や地域連携室とも連絡を取り、相談や支援も行っている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者さん主体の自治会があり、希望やご意見など一人一人の思いの表出を促している。表出が困難な場合でも、できるだけ気持ちに寄り添い、意向を尊重できる専門的接遇に努力し、アセスメントしながら自己実現のニーズの把握に努めている。	「私の暮らし方シート」を活用して、これまでの暮らし方や好みなどを聞き取り、その人らしさの支援をしています。利用者自治会や婦人会を通じて、一人ひとりの思いや希望を出してもらい、ホーム運営に活かしています。思いや意向が言葉で表現できない場合には、認知症ケア会議等で検討し、表情やしぐさ、行動等で察知して、利用者の意向を尊重できるようにしています。文化祭等では、利用者が持ち歌や日本舞踊等を披露して、自己表現できるよう支援しています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	暮らしの情報(私の暮らし方シート)を活用して、これまでの暮らし方や好みなどを聞き取り、その人らしさの支援をアセスメントしている。パーソンセンタードケアとして安心して生活できるよう、バックヒストリーを大切にエンパワメントサポートに努めている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人々のフィジカルアセスメントが必要であり、日々のバイタルのモニタリングをはじめ、ADL や BPSD の状況等を含め、医療連携においてトータルに見ていくことを実践している。体調不良については「いつもと何か変」という事に気付ける力が必要となる。常に客観的観察が出来、即報告や連絡や相談が出来るように努めている。特に認知症の BPSD は日々変化するものであり、適宜の専門的な対応を行っている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画は計画作成担当者と担当ケアスタッフを中心にチームとしてケア会議を行いPDCAサイクルに沿って毎月作成している。チームで情報の共有として活用出来るインデックス方式の採用等、日々変わる状況に対応している。計画に伴うモニタリングはアセスメントチームとして医療職との情報の共有に役立てている。カードックス方式の計画書は災害時の持ち出し用として活用で来る。	介護計画書は利用者・家族の希望や意向を反映し、連携する医師、看護師、薬剤師、職員の意見等も反映させて、家族の了承を得ています。長期目標、短期目標についてはケアプラン実施記録を基に、月に1回モニタリングをしています。利用者の転倒リスク等、新たな課題については家族に詳細を説明して理解を得ています。介護計画書は、毎月具体的な内容を写真や絵入りで分かりやすく記載し、家族に送付しています。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	電子カルテを活用して記録を行っている。電子カルテはデータ化されて実践に活用しやすい利点がある。データはミーティングや医療連携においても共有されやすい。業務日報と合わせて情報の共有化に努めている。災害時には視聴できないというリスクもあるが、緊急時用の手書きの介護フォーマットも常時備えている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	オリーブの園の特色とする音楽療法を活用した看取りや音楽葬にニーズが高まっている。また実習施設や就労準備支援の場としても活用している。ホームの行事では地域の方に来ていただいたり、近所の子どもたちが遊びに来て子どもとの触れ合いの場ともなっている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人は心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近所のスーパーへ日用品を買いに出かけたり、本人の希望でコンビニや100円ショップなどで買い物をしたりと地域の中での暮らしを楽しんでいる。また公園や遊歩道で散歩をしたり近所の方とお話することで暮らしの中での馴染みの関係づくりを支援している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	24時間365日いつでも往診可能な、往診専門の医療機関と提携しており、月2回の定期往診により、居宅療養管理が出来るように支援している。又、かかりつけ医から医療連携医にスムーズに移行できるようにサポートし、精神科や皮膚科等の専門医については入居前のかかりつけ医に引き続き受診出来るようサポートしている。	利用者・家族の希望に沿って、適切な医療が受けられるように支援しています。ホームでは往診専門の医療機関と提携して24時間、365日の医療連携支援が受けられるようにしています。ホームでは月2回の定期往診を実施し、何かあればすぐに対応できるよう健康管理に努めています。精神科や皮膚科等の専門医療については、利用者が入居前にかかっていた医療機関で継続して受診できるように支援しています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療連携施設として看護師がいる。介護士は健康上の気づきを看護師に報告し、指示を受けたり、必要に応じてスーパーバイズを依頼する。看護師は医師や薬剤師と情報を共有し薬の調整や往診等の調整を行う。又、看護師は職員の健康管理やホーム内の保健、衛生も指導管理している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時はグループホームから病院に対して看介護サマリーを提供している。退院に際しては管理者やホームの看護師が病院に出向き、医師や看護師、医療ソーシャルワーカーとのカンファレンスに参加したり直接話をするなど連絡調整、情報交換を行っている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	医師のインフォームドコンセント時や必要時に支援出来る様に、重度化や終末期に向けた方針を決定し、同意書を交わしている。又、最近の様々な看取りの選択に対しても、オーダーメイドのサポートに努めている。終末期には医師との情報の共有ツールとして電子カルテからフローチャートに変更している。	入居面談時にはホームの終末期支援方針を説明し意向を確認しています。利用者が重度化した場合には再度希望を確認し、看取り支援を希望される場合には家族、医師、看護師、職員等で話し合いをしています。終末期には希望に沿って看取り支援体制を整え、利用者が安らげるように環境づくりをしています。希望があれば家族が宿泊できるよう準備して、利用者との別れに悔いが残らないように支援しています。ホームではエンゼルケアや遺品整理についても職員が担当して心を込めた対応をしています。看取り支援終了後はカンファレンスを行い、良かった点や課題を明確にして今後に活かしています。さらに、法人では QOS 委員会を設置して「看取りケア委員会」グループを開設し、利用者支援の充実に取り組んでいます。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	QOS 委員会の苦情対応委員会グループにおいて急変や事故対応について取り扱うことになった。特にヒヤリハットの検証や検討を行う方針である。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	QOS 委員会の災害対策員会グループで災害対策マニュアル規定を策定し、大規模災害に備えている。また、個別の非常災害対策計画を作成し、地震や水害等を想定した防災訓練を年 2 回行っている。万が一の水害に備え、各居室にはライフジャケットと地域のボランティアの方に作って頂いた防災頭巾を備えている。備蓄の食料や水なども定期的に交換している。消防訓練も年 2 回行い、消防設備点検も定期的に行っている。	法人が設置している QOS 委員会の「災害対策委員会」グループで災害対策マニュアル規定を策定し、大規模災害にも備えた取り組みをしています。ホームでは消防署や地域自治会等と連携して、年に2回の防災避難訓練を実施しています。利用者は地域のボランティアに作ってもらった防災頭巾やヘルメットをかぶって避難訓練を行い、職員はその状況を映像と記録に残しています。水害に備えて利用者とスタッフ全員分の救命胴衣も確保しています。地域自治会の防災訓練にも参加して、地域との協力体制を築いています。非常時に備えて水や食料品、カセットコンロ等をホーム内に備蓄しています。避難時に持ち出す利用者情報等については、搬出時の対応等を職員間で共有しています。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシー保護ガイドラインを玄関に掲示している。現場においては慣れが生じやすく「常に自分に置き換えて考える力を養う」事や「自分の感受性に敏感である事」を介護の専門性として自ら磨きを続け、自分の介護観の柱として人権や倫理が立てられるような研修や人材育成に取り組んでいる。又、スタッフだけでなく、面会時のご家族様のルールやマナーについても施設内の写真撮影を禁止するなど「御面会のお願い」を掲示して啓発を行っている。	法人では人権や倫理についての研修を行い「プライバシー保護ガイドライン」を玄関に掲示して、利用者一人ひとりの人格を尊重し、プライバシーに配慮した支援を徹底しています。職員は利用者一人ひとりの意思を尊重し、利用者の思いに沿った支援をしています。家族の面会時には、施設内でのルールやマナーについて説明し、施設内では写真撮影を禁止する等を「御面会のお願い」として掲示し協力を得ています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	生活の中には多くの自己選択があり、日常の中では多くの選択情報を提供している。利用者間の自治会等においては希望が聴ける有効な機会として捉え、それらの要望により計画を立て実践している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	家庭的な環境の中にあるグループホームの特性を活かし、人や物・空間等の環境を大切にし、その人の今迄の暮らしや趣味活動などにも配慮しながら一人々のペースを支えている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	身だしなみはその方の自尊心を守る大切なものである。清潔で快適である上に、その人らしさを支えるお洒落などTPOに合わせて支援している。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	日常は家庭的な食事を主としており、料理の下ごしらえや食事準備、食器洗い、食器ふきなどの後片付けなども生活リハビリ、又、食の文化性としてスタッフと共に行っている。正月や敬老の日など非日常である季節の食事やおやつ作りなども楽しみの一つである。	朝食はホームで準備しています。昼食と夕食はホームでご飯を炊き、新鮮な果物等を用意して、弁当形式のおかずとみそ汁を外注しています。利用者は食事準備や後片付け等、得意なことで力を発揮しています。季節の行事に合わせて、利用者の希望に沿った献立を作り、皆で手作りをして楽しみ、おやつ作りにも取り組んでいます。利用者自治会の希望に沿って、寿司、ケーキパーティ、喫茶店等にも出かけて楽しんでいます。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養や水分摂取量の目安は計画の中に入っており、不足する場合は食事形態や嗜好に配慮している。夏季や冬季はホーム全体の脱水対策を心掛けている。又、BMIの変動もモニタリングし、栄養バランスにも心掛けている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアはその人に合わせて声かけや見守りで自立を促したりブラッシングを介助したりと日々の口腔ケアに努めている。認知症等のでかいのできない方にはお茶でのうがいを進めたり、マウスウォッシュやスポンジブラシで口腔ケアを行っている。必要に応じて訪問歯科の受診も支援している。職員も口腔ケアに関する技術的助言・指導を受けている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄パターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個別支援計画に基づき、又、排泄サインや排泄パターン、リズムをつかみ、失敗につながらないような声かけや誘導等の個別支援をしている。個別の排泄チェック表を利用者が自己管理しチェックしている方もいる。各居室にトイレがあることも自立につながっている。	排泄チェック表を作成し、利用者の排泄リズムを把握して、さり気なくトイレ誘導を行い、トイレでの排泄を支援しています。水分チェック表も作成し、食事にも配慮して気持ちよく排泄ができるように支援しています。職員の声かけや丁寧な対応により、自立につながった成功事例も多々あります。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	モーニングティーやナイトティーなどで自然に、しっかりと水分が摂れるように支援したり毎日の体操や散歩などで運動を促している。また、ヨーグルトやシリアル系などでセルロースを摂るようにも工夫している。便秘の方には医療と連携し投薬コントロールも計画している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴は清潔を保つだけでなく、心のホリデーやコミュニティ形成の場でもあり文化として捉えている。ゆず湯や菖蒲湯などで季節を感じたり、日頃も入浴剤でゆっくりとお風呂を楽しんでいる。仲良く入浴を楽しめるようグループミックス効果も計画している。ゆっくりと個浴を楽しむ方もいる。	利用者は2～3日に1回入浴をしていますが、希望があればいつでも入浴することができます。ホームには個浴と少し広めの浴室があります。旧女子寮を活用していることもあり、居室にも浴室を設置している部屋があります。利用者の希望に沿って、一人でゆっくり入浴したいときは個浴、友達同士で楽しく入浴したい時は広めの浴室を利用しています。季節に応じてゆず湯や菖蒲湯を楽しみ、日常的には入浴剤を活用して楽しんでいます。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	各居室は個室であり温度や湿度が管理されて快適に過ごせるように配慮している。在宅の延長として家庭的な雰囲気ですぐに緊張感もなく、ベッドではいつでも休息できる環境が整えられている。ホーム内はゆったりとしたヒーリング音楽が流れ、植物も飾られている。談話室ではコーヒーセラピー等も行われ、リラックスタイムを提供している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方薬の薬ボックスへの薬のセットは薬剤師に依頼している。毎時の薬のセットや配薬は基本ホーム看護師が行っているが、介護士も薬の知識や副作用、留意点に至るまで学習を提供し、配薬時はダブルチェックを行っている。薬の知識についての冊子はいつでも見ることが出来るように備えている。投薬情報としてお薬手帳も管理している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日々のレクリエーションや個別に作品を作ったり、音読なども学習療法的に楽しみとして行い、個人の作品ファイルも用意している。ホーム内の自治会やクラブ活動等もあり、自己実現としての発表会の場や機会も生きがい支援として行っている。秋には文化祭など目標を持って活動している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	近隣のスーパーへ日用品やおやつを買いに行ったり、近くの公園や遊歩道を散歩したりと日常的に外出を楽しんでいる。趣味の買い物に 100 円ショップやコンビニにも出かけた。外出行事は“自治会”により、利用者さんの希望や要望を聞き、お花見をはじめ、バラ・菖蒲・紅葉などの季節の行事を楽しんで頂いている。	暖かくて天気が良い日には近くの公園に出かけたり、ホーム周辺をゆっくりと散歩したり、近隣のスーパーやコンビニ等にも出かけています。地域の行事にも積極的に参加して交流を楽しんでいます。年間を通じての外出行事は、利用者自治会や婦人会でいきたい場所の希望を出してもらい、希望に沿った企画をしています。季節を楽しむお花見や紅葉見物等はお弁当持参で出かけます。希望に沿って外食や喫茶店に出かける取り組みもしています。家族と外出し外食を楽しむ利用者もいます。外出行事は映像にしてみんなで共有し、次の取り組みに活かしています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	コンビニで新聞を買ったり、バザーで買い物をしたり、趣味の品物や日用品を買ったりと、その人なりに買い物を楽しまれている。施設行事として駄菓子屋さんを開催し、買い物の気分を味わって頂いた。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本院自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	誕生日や母の日などにプレゼントが送られてきたときはお礼の電話をしたりお礼状を出すなどの支援をしている。郵便局で年賀状を買って年賀状を出される方もいる。		
52	19	○居心地のよい共有空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	家庭的で明るい雰囲気を大切にしている。ホーム内は有線やCDの心地良い音楽や懐かしい音楽が流れている。花や緑を飾ったり香りにも配慮しリラックス感もある。季節やテーマによってホーム内のデザインを変更している。	玄関前には葉牡丹の鉢などを置いて季節を感じられるようにしています。玄関を入ると、静かな音楽が流れ家庭的で落ち着いた雰囲気になっています。食堂兼リビングは談話室でもあり、食器棚や本箱、テレビ、時計、カレンダーなどを置いて、利用者が自由にくつろげるようにしています。廊下には各所にソファを置いて、利用者が思い思いに過ごせるように工夫し、行事写真や利用者の作品等を掲示してみんなで楽しめるようにしています。ホームでは理事長、管理者を先頭に施設点検ツアーを行い、気付きによる課題の整理と模様替え等を行っています。最近では、廊下にピーターラビットの作品シリーズを飾って楽しんでいます。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	談話室で座談をしたり、テレビや趣味の本、お茶などを置き、のんびりと過ごすことができるよう配慮している。また、廊下のソファでは動物クッションを置くなど、ゆっくりとくつろげるよう、居場所作りを工夫している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の住みなれた部屋を再現できるよう、使い慣れた家具等を持ち込んで頂くなどの工夫をしている。鏡台や暖簾など回想にも工夫している。趣味のものを飾られている方もいる。また、臭気などの環境にも配慮している。今年は皆さんの好みを聞き、本人の好みに合わせたカレンダーを飾った。	居室担当者の役割が定められており、環境整備や季節ごとの変更等、利用者の意向を確認しながら、その人らしい居室作りを支援しています。モダンなドレッサー、整理ダンス、可愛らしい縫いぐるみ等を置いた部屋、利用者が作成したジグソーパズルやクラフト作品を飾った個性的な部屋、プロ野球チームグッズに彩られた部屋、二つのソファと大好きな犬の飾りを置いたシンプルな部屋等、利用者一人ひとりが個性豊かな居室で暮らしています。ホームでは今年のカレンダーを利用者一人ひとりの希望に沿って作成し、同じものは一つもない個性豊かなデザインになっています。居室には温湿度計を置いて空調にも配慮した支援をしています。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55		〇一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設自体がシンプルであるが、廊下や玄関などの段差、各居室のトイレの段差には手すりを設置して安全面に配慮している。廊下にはソファやベンチを置くことで寛ぎと同時に転倒予防にも役立っている。各居室の入り口には木靴のインテリアを飾ってわかりやすくしている。		